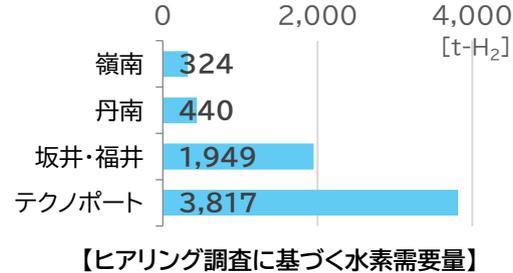


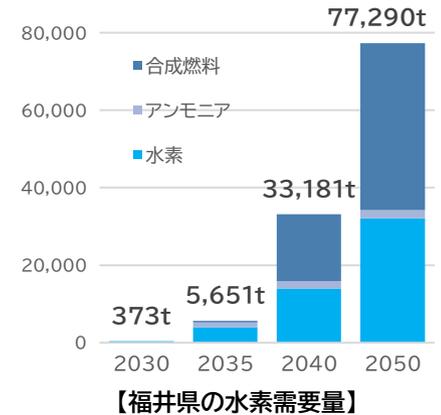
■ 需要調査

- 水素への興味・関心やエネルギー利用状況について、隣接府県も含めた約500社にアンケート・ヒアリング調査を実施
- 水素・アンモニア利用に関して**関心があるという企業は50%超**となる一方、2035年までに利用開始したいという企業は7社にとどまる
- また、高価でも転換したい企業はごく僅かであり、水素等への転換は**現状の燃料価格と同程度まで低減しないと進まない可能性**
- ヒアリングに基づく、福井県内の**2030～2035年における水素需要量は6,500トン程度**であり、テクノポート福井の需要量が最も多い



■ 将来需要

- 国立環境研究所のAIMモデルを用いて将来の水素需要量を推計
- 水素に加え、合成燃料・アンモニアを含めて水素換算すると**2050年には77,290トンと2030年の約200倍に増加**
- 同様に隣接府県（石川県・富山県・滋賀県北部・京都府北部）の総需要量を推計すると、2030年の約660トンから**2050年には約14万トンまで増加**



■ 供給ポテンシャル調査

[需要初期：2030年ごろ]

- 国内の複数拠点で水素・アンモニアの大規模な受入・供給が開始
- 2030年時点では、各拠点内およびその周辺地域での供給・利活用にとどまり、域外への供給は行わない。

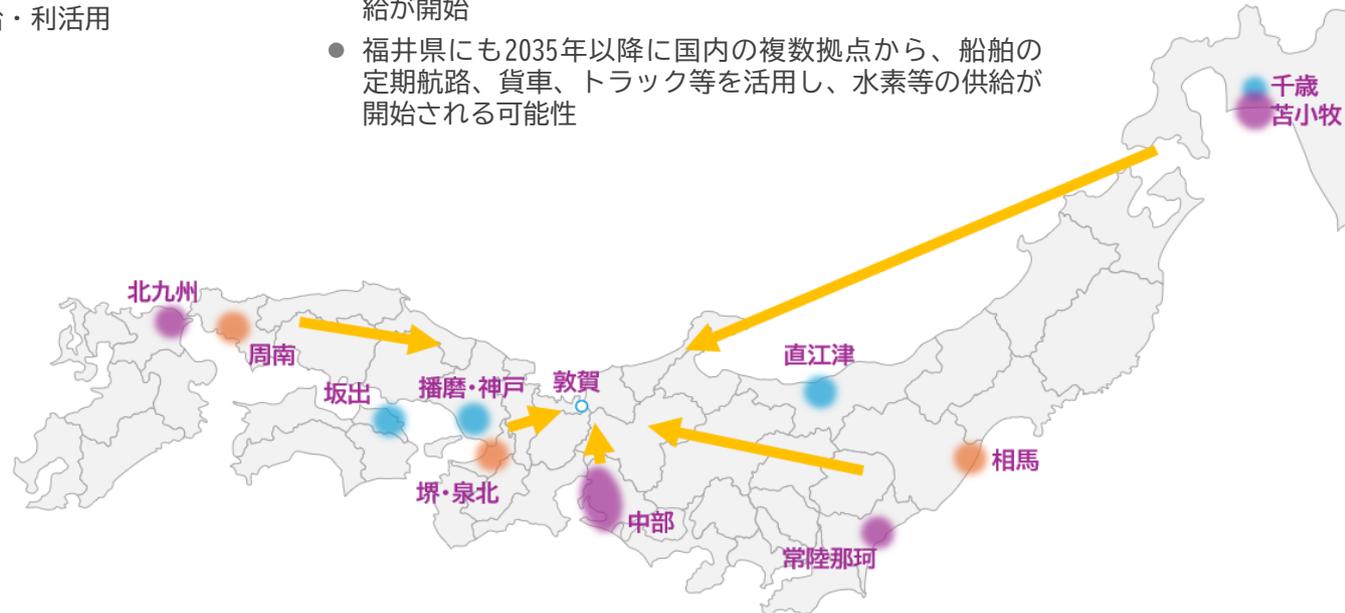
[需要拡大期：2035年以降]

- 国内の大規模な供給拠点から水素・アンモニアの広域供給が開始
- 福井県にも2035年以降に国内の複数拠点から、船舶の定期航路、貨車、トラック等を活用し、水素等の供給が開始される可能性

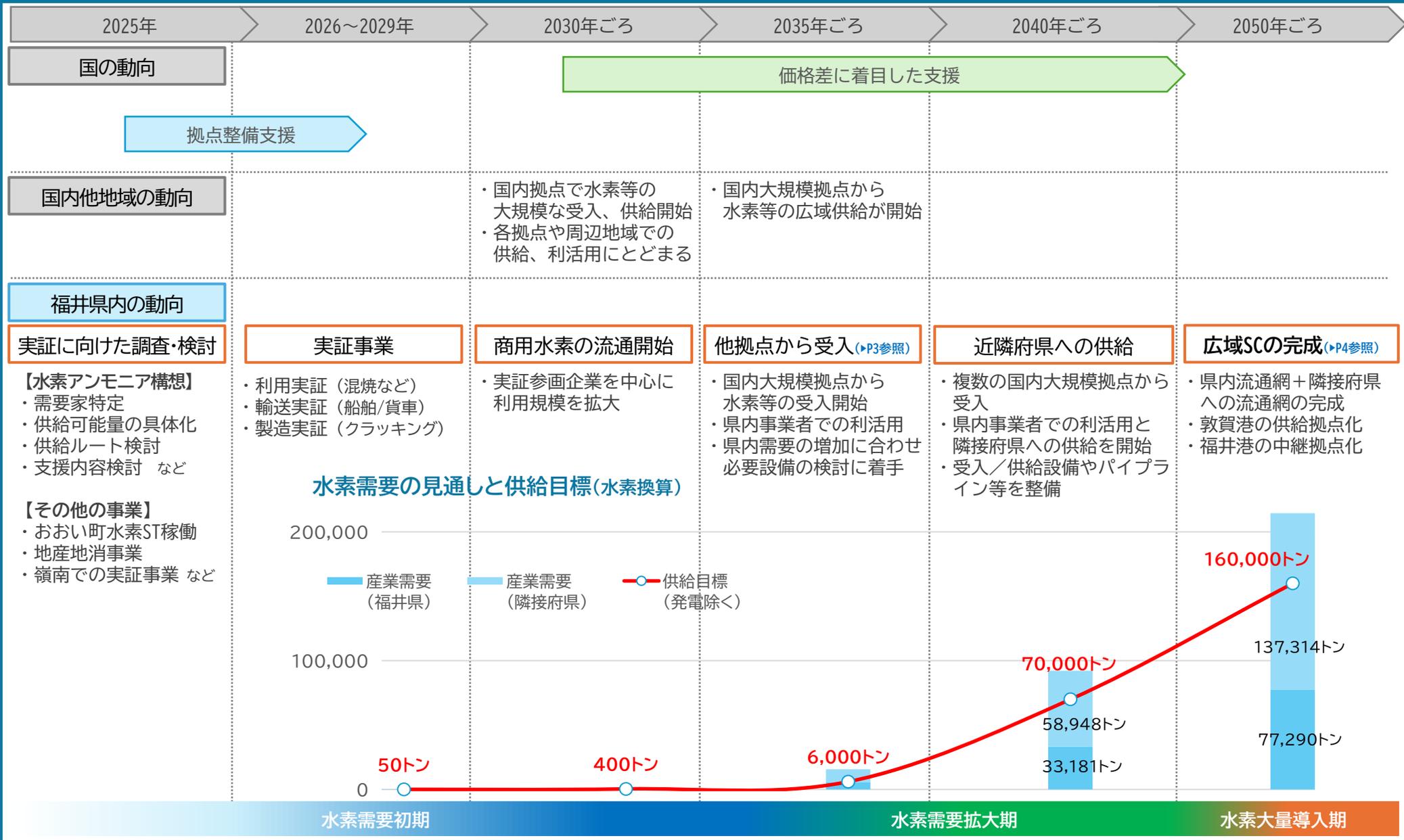
【国内他地域からの水素等流通イメージ】

- 水素供給拠点
- アンモニア供給拠点
- 水素・アンモニア供給拠点
- 2035年以降の流通経路

※水素等供給基盤整備事業の公募結果等を基に本県が整理した水素等供給インフラ整備の検討・調査を実施する地域



■ サプライチェーン構築に向けたロードマップ



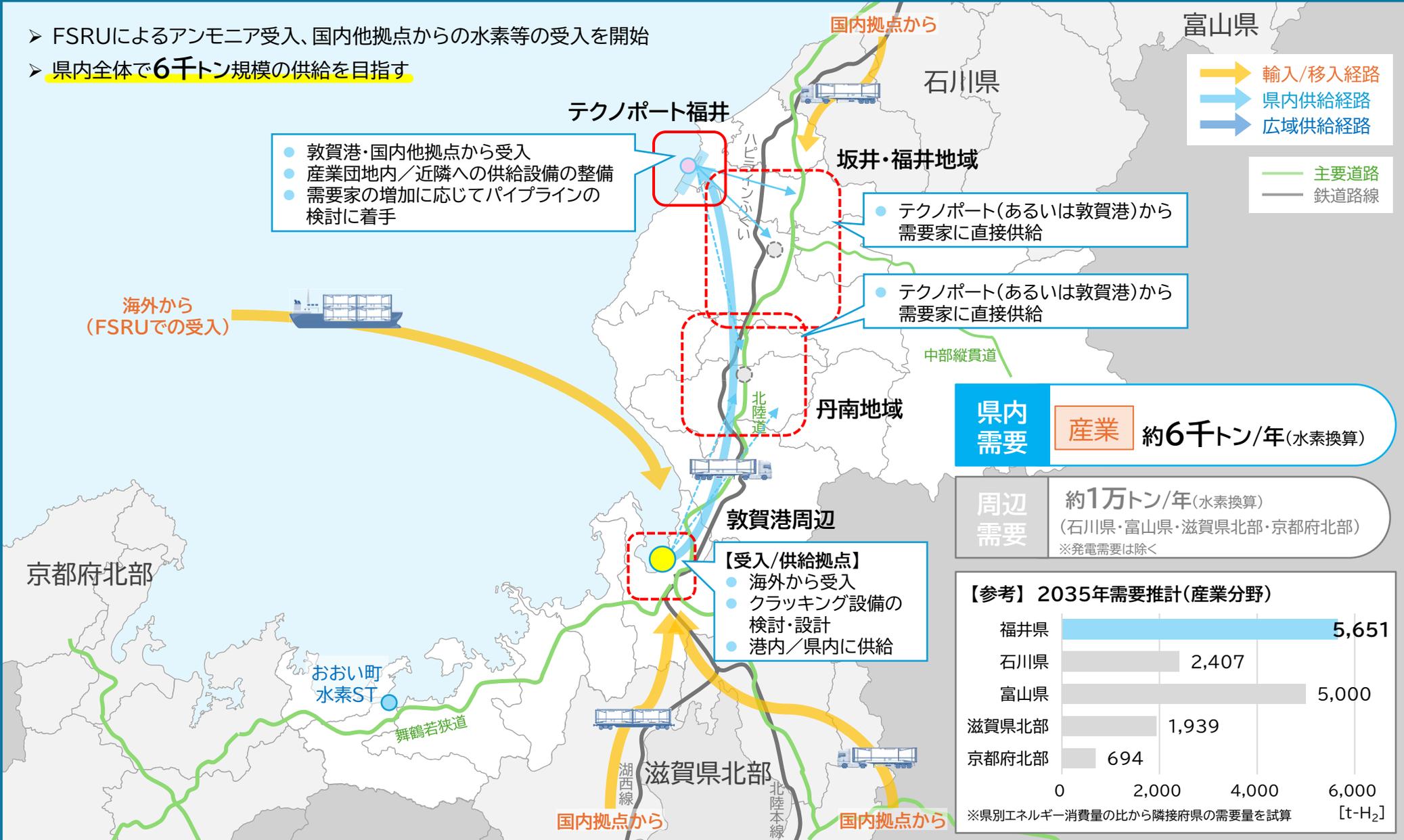
■ サプライチェーンのイメージ [需要拡大期:2035年ごろ]

- FSRUによるアンモニア受入、国内他拠点からの水素等の受入を開始
- 県内全体で**6千トン**規模の供給を目指す

- 敦賀港・国内他拠点から受入
- 産業団地内／近隣への供給設備の整備
- 需要家の増加に応じてパイプラインの検討に着手

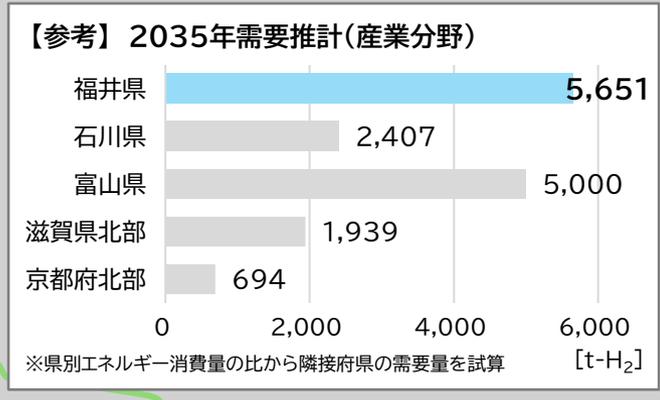
- テクノポート(あるいは敦賀港)から需要家に直接供給
- テクノポート(あるいは敦賀港)から需要家に直接供給

- 【受入/供給拠点】**
- 海外から受入
 - クラッキング設備の検討・設計
 - 港内／県内に供給



県内需要 **産業** 約**6千トン**/年(水素換算)

周辺需要 約**1万トン**/年(水素換算)
(石川県・富山県・滋賀県北部・京都府北部)
※発電需要は除く



■ サプライチェーンのイメージ [大量導入期:2050年ごろ]

- 広域流通網が完成
- 県内全体で**8万トン**、隣接府県に**8万トン規模***の供給を目指す
(※隣接府県へは自県需要と同量程度の供給を想定)

【大量輸送モデル】

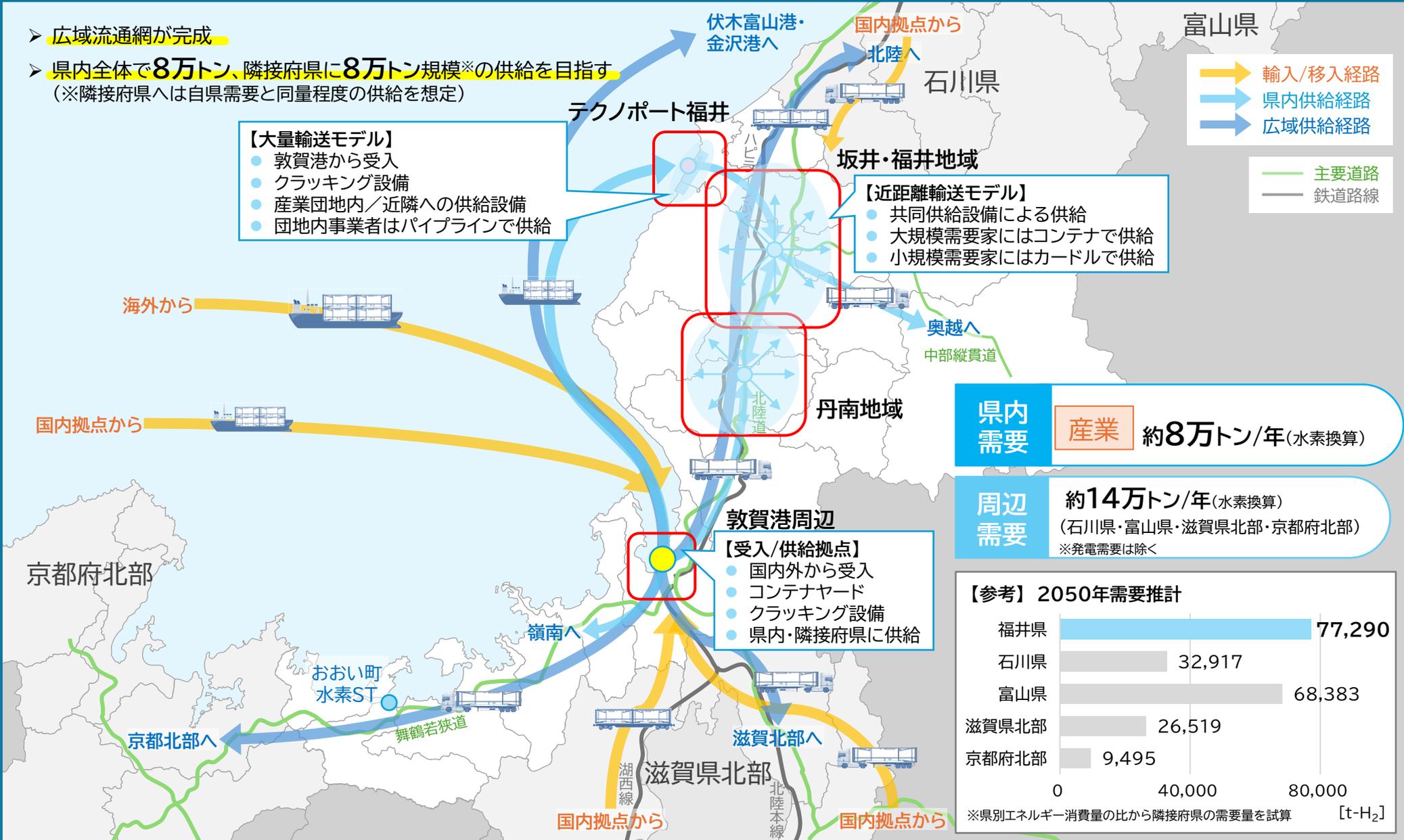
- 敦賀港から受入
- クラッキング設備
- 産業団地内/近隣への供給設備
- 団地内事業者はパイプラインで供給

【近距離輸送モデル】

- 共同供給設備による供給
- 大規模需要家にはコンテナで供給
- 小規模需要家にはカードルで供給

【受入/供給拠点】

- 国内外から受入
- コンテナヤード
- クラッキング設備
- 県内・隣接府県に供給



➡ 輸入/移入経路
➡ 県内供給経路
➡ 広域供給経路
— 主要道路
— 鉄道路線

県内需要 産業 約**8万トン/年**(水素換算)

周辺需要 約**14万トン/年**(水素換算)
 (石川県・富山県・滋賀県北部・京都府北部)
 ※発電需要は除く

